

条幅規定

師範正 登本 花徑

長鋒の羊毛の兼豪筆か、落筆高く遠勢の効いた筆勢と抑揚のリズムが作品に立体感を与え、現代性豊かな作品となった。無理なくまとめてはいるが、や、一行目の下部の曲がり気がなる。一考を。

条幅随意(臨書)

師範 木下 美鳳

原帖をよく観察し、双鉤填墨の品ではあるが、抑揚の効いたリズム感のある線が法帖に生命感を与えている。この用筆で文字の大小、強弱等が更に加味されれば、より真跡に近い作となるう。

条幅随意

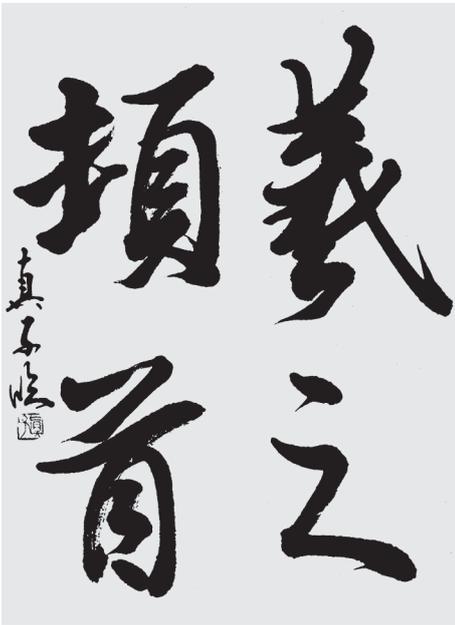
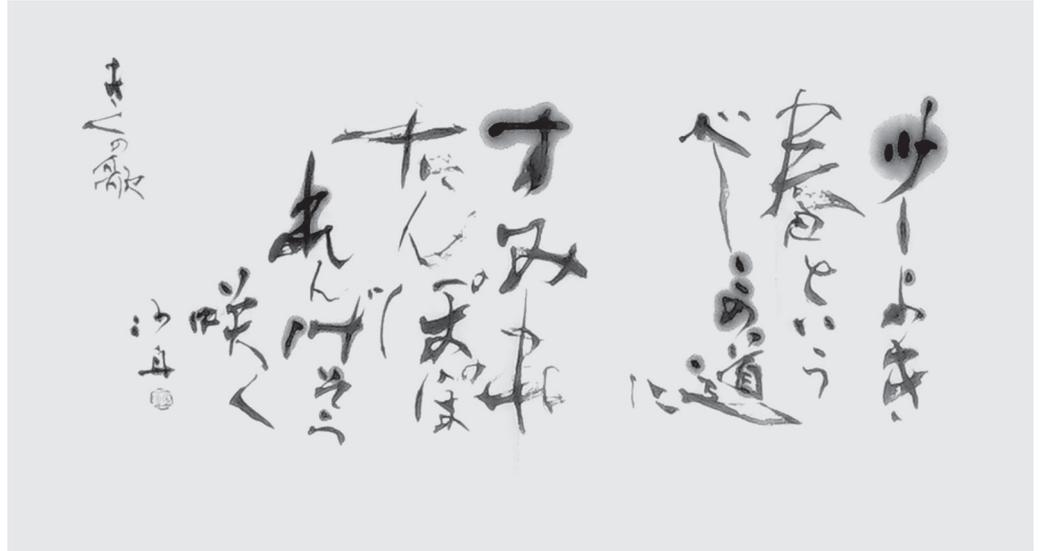
師範正 重富 翠柳

師範正の兼豪筆であろうか。字間を密にし、流れを前面に出した快作。月例作品では現代性豊かな作風に感心している。更に上を目指すか、視野を広げ挑戦するか、その恵まれた感性を後進に伝えてほしい。

半折 ½横

成家 下川 沙舟

感性豊かに大胆な筆致と思いきりのよい運腕と青墨で春の詩情を表現。余白の美しさと墨の滲みが花の香りを感じさせる。人生百年、コロナも落着き、もう一度エンジンを吹かしてみませんか。



半紙規定

成家 小野 麗華

永年蓄積された経験と技量が作品に漲り、存在感豊かな作品であるが、この社中は、墨が濃く、滲みや擦れの研究が加われば更に輝きを増であろう。先輩としての挑戦に期待。

半紙随意

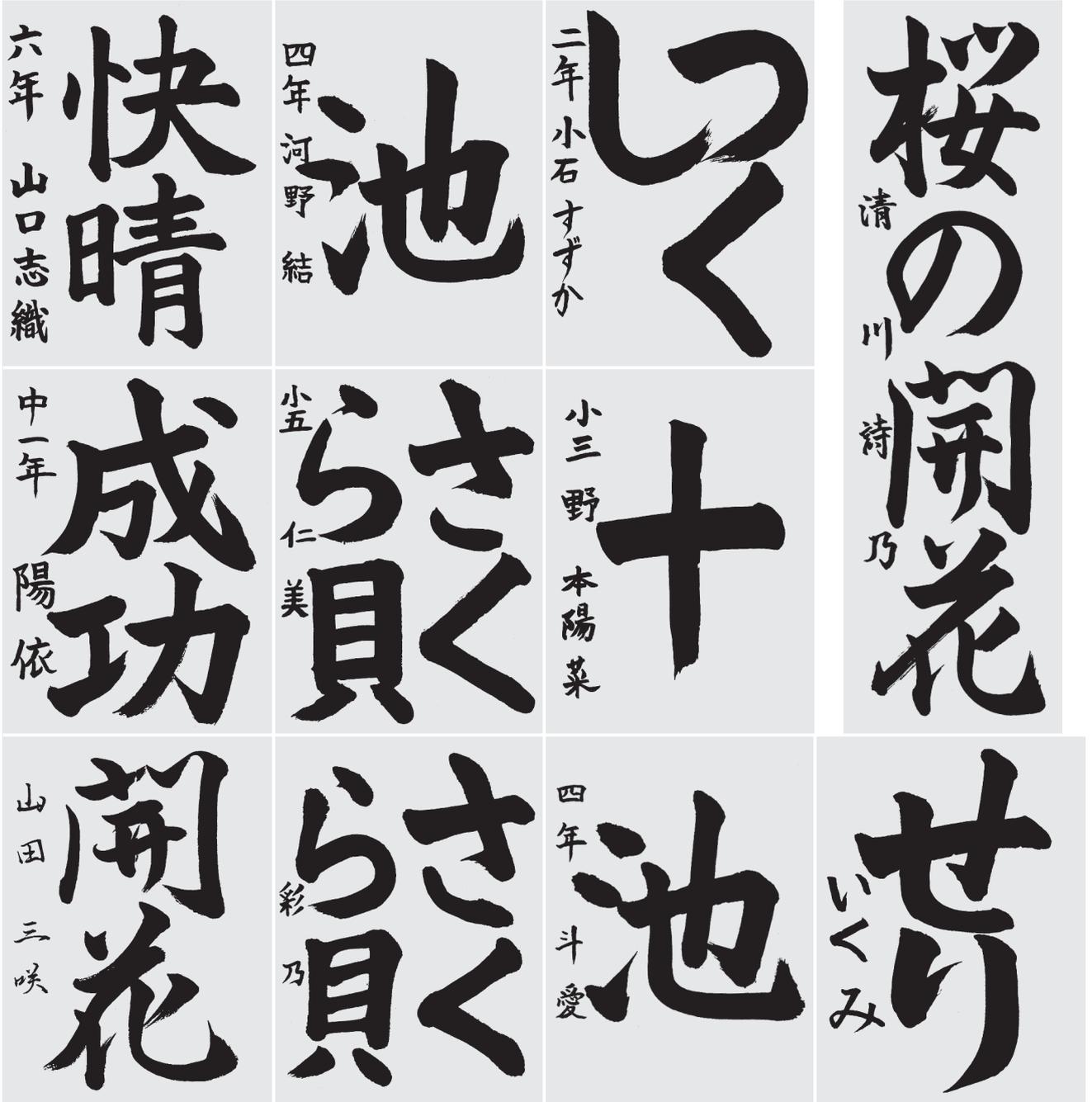
成家 植井 末美

最近メキメキと頭角を現し、永年の経験値が少しずつ花開いている。若者に負けぬ思いきりのよい線の粘りと充実感が光っている。手本にない植井ワールドに期待している。

半紙随意(臨書)

師 範 松下 真子

書家は多種の臨書を重ねること線や字形、筆遣いの基本、空間構成などが分かってきます。それが創作技術の向上へのヒントにもなります。古典は書家にとっての栄養素なのです。



学生部条幅 (1/4)

中三 準特待生 清川 詩乃

線に迷いがなく、行書の流れを自分のものとして書かれた完成度の高い作品です。頂上まであと一歩です。勉強との両立を頑張ってください。期待大！

のだいくみ

小一 準3級

一年生とおもえないほど、すばらしい作品です。なまえまでいっしょうけんめいにおいこができました。りっぱです。

こいしすずか

小二 準4級

半紙いっぱい元気よくのびやかに書いています。名前もとてもじょうずです。このちょうしでこれからもがんばってね。

野本 陽菜

小三 準2級

き本のふでづかいがしっかりできています。形よく、バランスよく書きましたね。おけいこの楽しさが作品に表れています。

渡辺 斗愛

小四 準5級

お手本を見間違えうほど、形よく書いています。名前もきれいで、よく練習ができています。さすが上位有段者の作品です。

河野 結

小四 準初段

お手本の細かな点もよく見て、形・バランスともをしっかりとした作品です。書けた作品です。名前もとてもいねいに上手に書いています。

前田 仁美

小五 五段

とてもすばらしい作品です。一字一字お手本をよく見て、しっかりと練習ができています。仁美さんの今後が楽しみです。

大石 彩乃

小五 準3級

伸びやかな線で、形良く書いています。上位有段者に負けない力の持ち主です。今後は、名前の練習に力を入れて頑張ってください。

山口 志織

小六 準三段

気のこもった力強い線で形良く、どうどうと書いています。名前もすばらしい。この調子で、さらに上を目指して下さいね。

高木 陽依

中一 四段

勢いのある線が、とても魅力的です。字形や全体のバランスも見事です。この調子で部活や勉強との両立を頑張ってください。

山田 三咲

中二・三 五段

リズムに乗った運筆で、流れ良く伸びやかに書いています。名前の練習にも力を入れて、更なる上段位を目指して頑張ってください。

硬筆部最優秀作品

(4月末日締切分)

(坂元紫香先生評)

えがおで えんそ
く あいうえお
おいしい おむす
び あいうえお
こが えまる

信号が青にかわると、た
くさんの車が走りだしま
した。細いうら通りでしん
しはおりていききました。

春花ははいと答えたけれど、実
際にはどうしたらいいか、分か
らなかつた。話しかけても、勇太
はあまりしゃべらない。でも、陸
とは楽しそうに遊んでいる。

待ち切れなかつた。わくわくしながら
ら小説の話を切りだすと、シンタは
顔をしかめた。あれ、嫌いだ。頭をか
つんと殴られたような気がした。暗
くてさ、何が書きたいんだらう。

竹やぶが、ゆれる
ゆれる、おどる。
雪が、とける、と
ける、水に、なる。
木下 二こころ

信号が青にかわると、た
くさんの車が走りだしま
した。細いうら通りでしん
しはおりていききました。

たしかに、そうだ。晴れがいいけ
ど、こんな雨なら大かかげいど
ちも好きってこともある。心で
賛成しながらも、ぼくはとっさ
にそれを言葉にできなかった。

「藤原さん、就職おめでとう、さあ、
ずと希望して、会社で喜びをいっ
て、学生時代からの夢を形にし
て、本道においでよ。」
私もまた、社会人三年目で、大した経験
もありません。悪戦苦闘の毎日です。が、
何事も相談してくれたいね。
近頃は、お祝いをかねて飲みに行きま
す。その日を楽しく過ごしています。

きつつきが、お店を開
きました。えりすぐりの
木を見つけて、きんかん
ばんをこしらえました。

春花ははいと答えたけれど、実
際にはどうしたらいいか、分か
らなかつた。話しかけても、勇太
はあまりしゃべらない。でも、陸
とは楽しそうに遊んでいる。

待ち切れなかつた。わくわくしながら
ら小説の話を切りだすと、シンタは
顔をしかめた。あれ、嫌いだ。頭をか
つんと殴られたような気がした。暗
くてさ、何が書きたいんだらう。

初めて降りた私鉄の駅で、伝言板を見
つけた。この旧式の「すれ違い防止装置
は携帯電話の普及で、空を消した
とばかり思っていた。遠い青春が蘇り、
甘酸っぱくもほろ苦い記憶に浸った。

こがえまる 小一 7級
木下 二こころ 小二 準8級
藤原 莉菜 小三 3級

友松里歌子 小四 準初段
山口 想和 小四 準3級
奥田 紗良 小五 準五段

川端 啓仁 小五 準三段
黒岩 佳歩 小六 準六段
野坂優咲菜 中学 特待生

小田 夏海 中学 準特待生
榎橋 篤子 一般 師範正
徳永 直恵 一般 師範